ジェネリックの有力企業に聞く

わが社の戦略　高田製薬

研究開発型のイメージが定着 小児科領域を軸に強みを加速

製剤工夫において突出した評価を得ている高田製薬。この特徴を生かし、さらなる事業拡大を国内外で狙う。その戦略について、同社社長の高田浩樹氏に話を聞いた。

高田製薬株式会社
代表取締役社長
高田 浩樹氏

……好感を持つ後発品メーカーを薬剤師に聞いた日経DIの調査では「患者が飲みやすい・使いやすい工夫がある」の項目で昨年を上回る60.6%という高いスコアを獲得し、「先発品にはない特徴がある」という項目でも他社の追随を許さない41.7%という高スコアでした。薬剤師が高田製薬の製剤工夫をいかに高く評価しているかが分かります。

高田　この高いスコアが、「高田製薬＝製剤開発」という当社の一番の特徴がイメージとして定着してきたことを示しているのだとしたら、とてもありがたいと思います。一方、学会での企業紹介を通じて、初めて当社を知ったという医療関係者の方もいらっしゃいますから、もっと多くの方に当社と当社の特徴ある製剤を知っていただけるよう、努力をしなければならないと感じています。

……先発品にない特徴を持つ高付加価値製剤の開発の難しい点はどこですか。

高田　新しく製剤的な工夫をするということは、生物学的同等性を保証するとともに、先発品にはない特徴を出さなければなりません。例えば、ドライシロップ剤は特にお子様が服用されることが多いので、先発製剤と生物学的同等性を保ちつつ、水に溶かしても苦味が出ないよう十分にマスキングする必要があり、こうした点が技術的な難しさの1つとして挙げられます。

また、製品化以前に、医療現場におけるニーズを調査するため、医療関係者の方に聞き取りをさせていただいています。その中で、「現在の製品に満足している」とのお答えが多数であっても、我々がそれに甘んじてしまえば、おそらく独創的な製剤開発はなくなってしまいます。そのようなことのないように、潜在ニーズを正確に発掘する点にも苦労をしています。

最近、新しいチャレンジとして、先発品メーカーからの製剤開発の受託への対応があります。今、先発品メーカーでは自社工場を持たずに外部に生産を委託するという流れが加速しつつあります。新薬の開発をするとき、あるいは長期収載品の改良をしたいときなど、「製剤開発から生産までお願いしたい」という要望が増えています。当社の特徴をよく理解していただいた上でのお話ですので、この点でも力を発揮していきたいと思っています。

……昨年12月にMSDから承継された抗ヒスタミン薬の「セレスタミン」「ポララミン」の2品目の販売が好調のようですね。

高田　両製品には5万軒のお得意様がおられました。その中には、当社とまだお取引のないところもありましたので、当社を知っていただくべく訪問に注力しているところです。その際、当社の特徴ある製品を初めてお知りになり、採用してくださるところが増えるなど、既存品の販路拡大・新規市場開拓という相乗効果が生まれています。

今回承継した製品のように、発売から何十年経過しても臨床上必須な薬剤は少なくありません。価格的には長期収載品と後発品の差はなくなりつつありますが、供給を継続していかなければいけない医薬品が数多く存在します。今後も小児のアレルギーや呼吸器など、当社の得意領域の中で、特に基礎的医薬品の承継を続けていきたいと考えています。

……昨年、幸手工場が完成して4工場体制になりました。今年政府が示した後発品の数量シェア80%以上という目標に対し、どう取り組みますか。

高田　後発品のシェア促進策が相次ぐ中、昨年は、一部の製品で出荷が遅れることがあり、ご迷惑をお掛けしました。現在は、幸手工場（埼玉県幸手市）の稼働により、増産体制が整いました。幸手工場をはじめ、当社の工場は埼玉県に集約しております。小ロット生産を中心とした大宮工場（埼玉県さいたま市）、日本一のステロイド工場を目指す外用剤専用の大宮第二工場（同）、凍結乾燥製剤を中心とした注射剤専用の北埼玉工場（埼玉県加須市）、顆粒やドライシロップ剤などの粉状製剤を主力とする一般製剤製造棟と高活性製剤製造棟からなる内服固形製剤専用の幸手工場の4工場において、安定供給を万全にする生産体制となっています。中でも幸手工場のポテンシャルは高く、例えばドライシロップ剤に限っても従来の大宮工場と比較して5倍以上の生産能力を持っていますので、数量シェア80%の目標に対して大きな役割と責任を持って市場に供給します。幸手工場はまだスペース的にも余裕があります。すでに新たな増産計画をスタートさせ、年内には5ラインの打錠・検査・包装ラインが搬入・稼働し、来春にはさらに大掛かりな増産計画も進めます。

また、本年、西日本での迅速かつ質の高い流通を推進すべく、神戸物流センターを開設しました。さらに、埼玉物流センターを年内に開設することで東日本の流通も増強し、生産のみならず供給体制を整え、政府の方針を見据えた対応を考えています。

昨年5月に竣工した幸手工場（埼玉県幸手市）では、最新の設備が見学できる（写真は同工場内の見学者ホール）。

……今後、どのような取り組みを考えていますか。

高田　新規事業としては、抗がん剤を中心とした高活性製剤について、国内のみならず海外も視野に入れ、当社の技術を生かした製品を開発・展開していきたいと考え、どのような製品が、どこの地域に輸出できるか、海外の企業と相談しているところです。欧米においても抗がん剤などは高薬価ですから、日本の高い技術を生かした高品質でリーズナブルな製品が受け入れられると考えています。

また、包装表示についての取り組みも大事です。例えば、ピロー包装やSP包装に対し、使用期限やロット番号を入れてほしい、といったご要望がありました。今年5月からそれに対応した包装に変更し始めており、順次対応した製品を拡大していく予定です。

……最後に薬剤師の先生方へのメッセージをお願いします。

高田　情報提供面では、現在のMR150人体制の中で、さらにきめ細かくご訪問させていただきます。併せて、コールセンターを充実させ、お問い合わせに迅速かつ的確にお答えするようにしていきます。

また、幸手工場を見学された方は、設備の充実ぶり、クリーンな環境、品質管理の力の入れ方などに一様に驚かれます。工場見学の受け入れも拡充していきますので、薬剤師の先生方にも、ぜひお越しいただきたいと思っています。

――人びとの健康を願って――
高田製薬株式会社
www.takata-seiyaku.co.jp